

飛鳥・藤原、平城の航空写真撮影

奈良文化財研究所では、数年に一度、平城宮・京域および藤原宮・京域の上空にヘリコプターを飛ばし、航空写真を撮影して宮・京域内の土地利用や建物などの変遷を定期的に記録しています。2023年5月には、約4年ぶりとなる航空写真撮影をおこないました。

当日は、朝方に少し雲がかかる状況でしたが、飛行を開始する頃には天候もよくなり、新緑の美しいところ、奈良の豊かな自然環境とともに撮影することができました。

平城宮・京域内では、平城宮跡や奈文研本庁舎にくわえ、撮影順に西大寺、西隆寺旧境内、東大寺、興福寺、旧大乘院庭園、薬師寺、唐招提寺、大安寺などを中心に上空から撮影しました。飛鳥および藤原宮・京域では、藤原宮跡や都城発掘調査部（飛鳥・藤原）の庁舎・飛鳥資料館といった奈文研の施設にくわえ、大和三山の香具山・畝傍山・耳成山、撮影当時に奈文研が発掘調査をおこなっていた日高山瓦窯（飛鳥藤原第213次）、石神遺跡、飛鳥宮跡、中尾

山古墳、高松塚古墳、キトラ古墳、牽牛子塚古墳などを撮影しました。

下の写真は、平城宮跡を南西から撮影したものです。平城宮跡のほぼ中心には、大極殿が建ち、その南側には2022年に竣工した大極門もみえます。大極門の東には、現在復原工事が進む東楼の素屋根が存在感を放っています。この素屋根は、復原工事用に建てられた仮設建築物で、大極門の復原工事に使用したものを東側に移動して東楼の復原工事に再利用しています。復原工事中にしかみられない景色と言えるでしょう。また、薬師寺は前回撮影時は修理中で素屋根がかかっていましたが、今回は、修理完成後の東塔と西塔を撮影することができました。いっぽうで、興福寺五重塔は2023年度より修理をおこなう計画のため、修理前最後の航空写真となります。飛鳥・藤原地区では、特徴的な八角形の墳丘をもつ牽牛子塚古墳（2022年整備）を撮影できました。

このように宮・京域の航空写真撮影をおこない、記録を重ねることで、土地の利用形態の変遷や整備状況などを示す資料を蓄積していきます。

（都城発掘調査部 高野 麗）



平城宮跡を南西から臨む